

平成24年度 佐久市部落差別撤廃人権擁護審議会  
議事録（要旨）

日 時 平成24年6月26日

13:30～14:30

場 所 中央隣保館 2階会議室

佐久市部落差別撤廃人権擁護審議会委員 16名出席（4名欠席）

- |        |               |
|--------|---------------|
| 1 開 会  | 進行：重田副会長      |
| 2 自己紹介 |               |
| 3 あいさつ | 金川会長・岩間市民健康部長 |
| 4 会議事項 | 議長（金川会長）      |

（1）報告事項

- ①「佐久市内福祉施設差別事件」について

（事務局より説明）

（2）協議事項

- ①佐久市部落差別撤廃と人権擁護に関する総合計画について

ア 平成23年度事業報告

（事務局より説明）

イ 平成24年度事業計画（案）

（事務局より説明）

【質疑、意見】

（委員） 手話教室について、身体障害者福祉協会の理事会には聾啞の人がいるが、私たちは手話の勉強をしているわけではなく、隣にいてもコミュニケーションがなかなかうまくいかない。そういう意味でこの教室は良いことだと思う。協会の中でもぜひ教室を持ちたいという考えもあったが、こちらで行うということであれば活用させてもらいたい。

できるだけきめ細かくお願いできればありがたい。

（議長） 手話教室はできれば方々でもっと頻回に行ってほしい、というご要望でよろしいでしょうか。

（委員） はい。

(委員) 24年度の事業の関係について、参加者数について目標を定めて活動することは非常に大事なことだとは思いますが、各隣保館の様々な事業について、テーマや活動内容を精査すること、活動内容や活動のテーマ、活動の課題について、どのような場で決めていくのか、どういった場所で協議して決めているのか、ということも重要なのではないかと。

また、それぞれの事業の内容や研修の内容について、参加者へのアンケートなどを取りながら、いろいろな事業の進捗状況をチェックしていく必要があるのではないかと。

人権同和教育・啓発の関係の、PTA人権同和教育研修会について、学校ごとに内容、テーマについて独自性を持たせながら取り組んでもらっているとのことだが、具体的には学校の方ではどのような活動が行われているのかということについて、今日は資料がないかとは思いますが、また教えてもらいたい。たとえば佐久のどの学校では人権同和に関してこういう活動を行っている、ということ参考に出してもらえれば、そのことについてほかの学校にも知らしめて行くことができる。

佐久市では昨年度の差別事件を契機に、保育園での研修の充実をお願いしていくが、小諸市では、幼保小中高の先生が研修を行っていると聞いているので、高校までは県教委の関係があるので難しいかとは思いますが、佐久市でも、高校も踏まえながら、そういうものを人権のテーマに組み込んでもらえるような取組をお願いしたい。

(事務局) 差別事件を受けて、市としては、差別発言をされた方に、市民としての研修の機会がほとんどなかった、また、組織内においてもなかったということが大きな問題として根底にあったと考えている。

また、平成22年度に人権同和问题に関する市民意識調査を行う中で、人権に関することばへの認知度が前回平成17年に調査した時よりも下がっている。

昨年度11月からの委員の皆様には、市長の方からも、このことをしっかりと受け止めて啓発に力を入れていかないといけない、という話をさせていただいた経過もある。そのような視点で、委員の皆様から忌憚のない前向きなご意見を頂ければありがたい。

(委員) 人権同和教育・啓発の巡回指導事業について、23年度のそれぞれの区で、講演会等が行われたのは何%くらいなのか、24年度については、それぞれの区では実施されているのか、また、区で行うことが難しいならば地区ごとで行う、といったような具体的な方法があるのかどうかお聞きしたい。

(事務局) 正直なところ、合併以後1度も行っていない区もある。一方で平成17年から23年まで毎年行って頂いている区もある。その点について今後解消していけるよう、同和教育推進員の先生方が活動をしてくださっている。先生方は、担当の区長さんの電話番号などを教えてもらえれば自分の方からアプローチをしていきたい、など、とても一生懸命に活動していただいている。

全体では、3割位になる。

(委員) 同和教育問題、ということではなく、他の人権問題も含めて行えば各区でも取組ができる区があるのではないかと感じる。

(事務局) 人権同和教育講座や、人権同和教育という形で掲げているが、区の要望によって、高齢者のことや、障害者のこと、子どもの人権など、様々な人権について学習していただいている。

(委員) 地域で講座を開催しても参加者が少ないというのは現状としてある。パンフレットを作ったり放送を流したりするなど、行政側にもう少し力を入れてもらいたい。

(議長) 同じ内容の講座を行うにしても、タイトルを工夫するなど、もう少し一般の方に興味をもって来てもらえるような工夫が必要かもしれない。

(事務局) 受講の機会を上げていくということであれば、24人の先生方とお話をして、また、同和教育だけで集まってもらうということは大変な部分もあると思う。したがって、各区では、年に何回かは区民が集まることあるかと思うが、そういうときに合わせて、長時間ではなくて構わないので、一緒に開催をさせてもらうような努力も必要かと感じた。前向きに検討させていただきたい。